

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

《仁淀川地域：第3四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (譲じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>1 仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上</p> <p>(いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>良質茶の主産地である仁淀川流域の生産者が共通認識のもと「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、適正な栽培管理と効率的な生産体制の整備や、新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p> <p>【JAコスモス、管内の茶生産組織】</p>	<p>○仁淀川流域全体をイメージした販促資材を活用し、流域ぐるみで積極的な販促イベントやPR活動を実施することで、一定のブランドイメージの構築と知名度の向上を図ることができた。</p> <p>○優良茶園維持管理体制について生産者アンケートを実施し、その結果、今後のJAコスモス茶生産部会を中心とした産地ビジョンをつくり、それに基づいた行動計画を策定することとなった。</p> <p>○煎茶以外の紅茶などの商品開発にも取り組み、商品レパートリーを拡充できた。</p> <p>○新害虫の発生周知および防除への意識付けができた。</p> <p>◆さらなる知名度向上と消費拡大 ◆小売販売量の増加 ◆優良茶園の維持 ◆新商品の開発</p>	<p>・仁淀川流域茶産地振興に係る協議会などの開催(2回)</p> <p>・新商品開発検討(11回)</p> <p>・消費者と生産者の交流会(4回)</p> <p>・茶害虫チャットゲコナジラミ発生量調査(133茶園)、対策説明(1回)</p> <p>・茶改植事業周知(1回)</p> <p>・仕上げ茶の販売量調査(1回)</p> <p>・販売促進活動(10回)</p>
<p>2 地域を支える基幹品目の振興</p> <p>(仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ・食用山椒)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモス各生産部会、越知町山椒生産組合】</p>	<p>○ニラの出荷量は、レンタルハウス事業によるハウス面積の拡大やニラ洗浄ソグリ機の導入等により増加してきている。新規就農者及び新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の販売額の増加が期待される。</p> <p>○ピーマンでは活着促進・かん水等の基本的技術が徹底されたが、青枯病の多発生や干ばつにより到達点には至らなかった。H26年度は青枯病対策として発生ほ場は、ほ場の転換・土壌消毒・抵抗性台木の導入等の対策が広く取り入れられた。</p> <p>【ニラ】</p> <p>◆ニラ産地の維持・拡大 ◆経営改善への支援 ◆栽培管理技術の向上及び部会活動への支援</p> <p>【ピーマン】</p> <p>◆ピーマンの収量品質の向上、IPM技術の検討(青枯病対策、天敵利用技術等)</p> <p>【ショウガ】</p> <p>○ショウガの土壌消毒剤としてダゾメット剤とクロルピクリンが定着してきた。</p> <p>◆新規就農者が多く、早期の技術習得が必要</p> <p>◆集出荷体制の強化</p> <p>【食用山椒】</p> <p>○山椒はさび病対策の目途がたった。</p> <p>◆山椒の生育不良樹対策、収穫期の雇用確保</p>	<p>【ニラ】</p> <p>・月例会の開催(12回)</p> <p>【ショウガ】</p> <p>・ショウガ栽培管理講習会(3回)</p> <p>脱臭化メチルマニユアルの普及 白星病防除技術に関する知見の周知</p> <p>【食用山椒】</p> <p>・山椒栽培暦の周知(1回 総会)</p> <p>・山椒展示園設置と管理</p> <p>・山椒ほ場の土壌分析</p>
<p>3 薬用作物の産地拡大による所得の向上</p> <p>(仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物の産地を漢方薬の需要増に対応できるように拡大する。また生産農家の所得の向上と就労の場の確保を図る。</p> <p>【農事組合法人ヒューマンライフ土佐】</p>	<p>○農事組合法人ヒューマンライフ土佐が中心となって薬用作物の面積拡大に取り組んできた。その作付面積は仁淀川流域から嶺北、幡多地域まで拡大し、全県下的な取り組みになっている。特にサンショウの面積拡大が顕著であった。</p> <p>一方、ミシマサイコでは、特に連作園場での収量低下が問題になっており、25年度には土壌改良資材の効果について検討したが、解決には至っていない。</p> <p>◆薬用作物の産地の育成</p>	<p>・ミシマサイコの生産振興対策 25年度実証圃成績の周知(1回) 発芽対策試験の実施 現地巡回(12回) 生育調査(3回) 現地検討会(4回)</p> <p>・ヒューマンライフ土佐総会(6/10)</p> <p>・越知町、佐川町、仁淀川町への回覧用生産者募集パンフレット配布(12/16)</p> <p>・ミシマサイコ県域版栽培マニュアル作成補助(10月)</p>
<p>4 力強い高精度トマト産地の確立</p> <p>(仁淀川町、佐川町、日高村)</p> <p>高精度トマト生産における生産特性を生かしたトマトの販売戦略や地域ネットワーク、消費者ニーズを基に付加価値を高めた産地間競争力を強化しながら、生産者の所得の向上につなげる。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモストマト生産部会】</p>	<p>○食の安全・安心への取組強化、栽培マニュアルによる栽培技術の標準化、産地コンセプト活用によるイメージ戦略と合わせた高付加価値化、特★商材の販促活動への取り組みにより販路の拡大につながっている。</p> <p>◆人材育成及び産地の体制づくりに向けた活動の継続 ◆安定生産のための栽培技術向上 ◆光センサー導入に向けての生産者等の合意形成 ◆販売戦略の新たな展開</p>	<p>・行政連絡会 9回</p> <p>・人・農地プラン営農定着支援 14回</p> <p>・経営改善 農業簿記指導 6回 13戸 個別カウンセリング 9回 10戸</p> <p>・栽培講習会等 促成:講習会 8回、個別巡回指導 344戸 夏秋:講習会 2回 個別巡回指導 74戸</p> <p>・光センサー導入にあたっての意向調査 促成 16戸、夏秋 5戸</p> <p>・光センサー設置に向け 攻めの農業実践緊急対策事業打ち合わせ 5回</p> <p>・販売戦略の新たな展開 販売等打ち合わせ 促成:3回 夏秋:1回</p>

アウトプット(結果) (インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと)	アウトカム(成果) (アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと)	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> 消費者との交流会に合計74名参加(秋葉25名、明郷園5名、JA20名、霧山24名) 土佐炙茶認定 2(JAコスモス、池内茶園) 土佐炙茶商品 4(JAコスモス) 平成25年の仕上茶販売量小売量27t、荒茶生産量160tで小売販売率は16.9% 販売促進活動により多数の消費者に土佐茶のPRができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者との交流会は、実施団体数(25年:2→4)、参加人数(25年:約30名→74とも)に増加 土佐炙茶認定茶合計8(25年:6) 小売販売率向上16.9%(24年:13.8%) 	<p>【指標】 仕上茶の販売量 (H19:茶全体の7%) (H22:茶全体の11.4%)</p> <p>【目標(H27)】 16%</p> <p>【H26到達点】 15%</p>
<ul style="list-style-type: none"> ニラ月例会への参加者(延べ117人) ピーマン勉強会参加者(延べ44人) ピーマン実証園設置(2カ所) ショウガ生産者交流会の参加者(25名) 食用山椒実証園設置 山椒ほ場土壌診断点数(30点) 		<p>【指標】 出荷量H22(ニラ573t、ピーマン245t、ショウガ882t、食用山椒30t)</p> <p>【目標(H27)】 ニラ650t、ピーマン270t、ショウガ950t、食用山椒32t</p> <p>【H26到達点】 ニラ594t、ピーマン260t、ショウガ420t、食用山椒36t ※ショウガの出荷は越知出荷場のみ</p>
<ul style="list-style-type: none"> 県内でのミシマサイコ生産振興対策の検討 ミシマサイコ現地検討会参加人数:6/23 10名(越知)、5/24 15名(嶺北) ミシマサイコの初期成育状況の確認 ヒューマンライフ土佐総会参加者(110名/163名(組合員)) ミシマサイコ県域版栽培マニュアル完成 		<p>【指標】薬用作物の作付面積 ミシマサイコ(H19:38ha)(H22:47ha) サンショウ(H19:12ha)(H22:59ha) ダイダイ(H22:18ha)</p> <p>【目標(H27)】 ミシマサイコ70ha、サンショウ80ha、ダイダイ30ha ※一部、愛媛県域を含む</p> <p>【H26到達点】 ミシマサイコ60ha、サンショウ80ha、ダイダイ30ha ※一部、愛媛・香川・徳島県域を含む</p>
<ul style="list-style-type: none"> 促成 販売実績(10/1~12/15) 72t(前年同期比134%、前々年同期比111%) 夏秋 販売実績(5/29~10/31) 83t(前年同期比116%、前々年同期比126%) 販売額 7.3千万円(前年同期比115%、前々年同期比118%) 	<ul style="list-style-type: none"> トマト選果ライン高度化(軟化果実・芯腐れ果実の選別) (攻めの農業実践緊急対策事業・事業費:262,030千円) 	<p>【指標】 高糖度トマトの販売額 (H19 4.2億円) (H22 3.7億円)</p> <p>【目標(H27)】 5.1億円</p> <p>【H26到達点】 4.3億円</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 （これまでの主な成果：○ 課題：◆）	インプット（投入） （同じした手立てが数量的に見える形で示すこと）
<p>5 JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化</p> <p>【土佐市】</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p> <p>【JAとさし】</p>	<p>○JAとさし園芸産地ビジョンの策定(H21～23)</p> <p>○JAとさし西部集出荷施設の整備(H21～22)</p> <p>(1)集出荷場等整備(H21)</p> <p>(2)土佐文旦選果機・生姜重量選別機ライン整備(H22)</p> <p>(3)青ねぎパーソナルシール包装機・予冷施設整備(H22)</p> <p>○JAとさし宇佐ピーマン集出荷場の整備(H22～23)</p> <p>(1)自動秤量包装機導入(H22)</p> <p>(2)集出荷場拡張(H23)</p> <p>○ウリ類園芸作物での黄化えそ病発生率の低下</p> <p>○ピーマン・シシトウでの環境制御技術導入検討が進む。</p> <p>◆JAとさし園芸産地ビジョンの早期実現と販売力強化</p>	<p>・チーム会（連絡会、指導部会）20回</p> <p>・キュウリ出荷システム整備にかかる打合せ 4回</p> <p>・学び教えあう場（ピーマン、シシトウ、キュウリ、メロン、草花、オリエンタルユリ、テッポウユリ、アキマメ、イチゴ、青ネギ、果樹）61回</p>
<p>6 加工用ワサビの加工の促進</p> <p>【土佐市】</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを製造する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p> <p>【㈱マルカ】</p>	<p>○加工出荷施設の整備(H22)</p> <p>販売先である金印峠が希望する200tの一次加工処理能力は備えることができた。また、県農業振興部、園芸連とも有望品目に位置付け生産振興に取り組んでいる。</p> <p>◆加工用わさび作付面積の減少</p>	<p>・加工用ワサビ関係者との協議4回</p>
<p>7 土佐文旦の加工</p> <p>【土佐市】</p> <p>地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため加工品の原料としての有効活用を図る。</p> <p>【JAとさし、土佐文旦加工組合、菊水酒造(株)、ひまわり乳業(株)】</p>	<p>○JAとさしと菊水酒造が連携し、平成21年度から文旦の下級品を活用した加工品を検討し、平成21年度には、総合支援事業の導入により、菊水酒造が搾汁機を設置した。現在加工品（酒類）を6品開発・販売している。</p> <p>また、販売面では、菊水酒造だけでなく、JAIにおいても、JAラベルによる商品（贈答用セット）を作り販売している。</p> <p>◆下級品の活用量が伸びておらず、加工業者との連携による商品販売の取り組みと、新たな下級品の利用拡大が課題である。（活用量：平成21年度10t、22年度30t、23年度30t、24年度30t、25年度4.2t、文旦下級品量：年平均200t）</p> <p>○土佐文旦加工組合では、委託加工による飲料「ぶんぶん」を製造し、消費拡大を目指して都市部でのPR販売・アンテナショップでの販売に取り組んできた。しかし、消費の低迷等の課題から、新たにひまわり乳業との連携による新商品を開発し、ANAでの機内販売として取り扱われ、商談会・見本市にも参加してきている。新たな搾汁体制も整い、引き続き加工業者との商品の共同開発をしていくこととなっている。</p> <p>◆具体的に新たな商品の開発はできておらず、開発した時の販路も含め、新たな取り組みが必要となっている。</p>	<p>・打ち合わせ回数 延べ6回</p> <p>・利用に向けての打ち合わせ会 2回</p>
<p>8 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</p> <p>【土佐市】</p> <p>地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市内等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【㈱前川博之商店】</p>	<p>○充填機等の導入及び工場の新設を行うことにより、経営利益率が高い加工品の生産性が向上している。</p> <p>◆生姜受込量の確保</p> <p>◆加工品の販路開拓</p>	<p>・生姜加工関係者との協議6回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 JAとさし園芸品出荷量 15,263t(H23園芸年度) 【目標(H27)】 16,000t(H27園芸年度) 【H26到達点(実績)】 15,815t(H26園芸年度)
		【指標】 加工用ワサビ出荷量 (H21:60.0t) (H23:71.3t) 【目標(H27)】 150t 【H26到達点】 45t
・原料供給の際の、原料供給側からの解決課題(供給時期、供給量の早期確定と確実な実施)が明らかになった。 ・原料需要側の課題(販売状況、加工時期)が明らかになった。	・今年度利用量等の確定(利用量:10~30t)	【指標】 加工原料用の土佐文旦の活用量 (H19:0t) (H22:30t) 【目標(H27)】 100t 【H26到達点】 30t 【指標】 加工品の開発と販売 (H19:1品) (H22:3品) 【目標(H27)】 4品(1品/年) 【H26到達点】 1品(今年開発販売)
		【指標】 生姜加工品の販売額 (H22:114,792千円) 【目標(H27)】 200,000千円(H27.9) 【H26到達点】 182,958千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果・○ 課題・◆)	インプット(投入) (同じした手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>9 いの地域における園芸産地の維持・発展</p> <p>(いの町)</p> <p>農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい状況がみられるなか、いの地域の園芸産地ビジョンに基づく生産の振興と集出荷体制整備により販売力を強化し、農業所得向上に繋げる。</p> <p>【JAコスモス(伊野支所、吾北支所)】</p>	<p>○JAコスモス(伊野支所、吾北支所)管内の園芸産地ビジョンの検討(H21~23)により、園芸産地としての「あるべき姿」の実現に向けた検討を行った。</p> <p>○H24園芸年度のJAコスモスのいくつかの品目で出荷量の増加が見られるようになった。</p> <p>・ワサビ生産者(作付け)の増加(収穫は来年度)。</p> <p>・新規就農者及び後継者が増加(ショウガ部会(2名)、白芽芋部会(4名))。</p> <p>・伊野支所出荷量:生姜468t、白芽芋42.5t</p> <p>◆農産物価格の低迷を背景に、新たな経費負担を伴う集出荷場施設整備には、係る品目を単位として組合員の合意形成に時間を要する。</p>	<p>・連絡会15回</p> <p>・新規就農者の確保についての協議</p> <p>・ショウガ講習会2回</p> <p>・ユズ栽培講習会1回</p>
<p>10 集落営農の推進</p> <p>(いの町)</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p> <p>【いの町吾北地区の集落営農組織】</p>	<p>○上東地区営農組合は、平成21年度の発足以来、ニラ、ワサビ等による協業部門や、稲作の作業受託部門ドリームサポート、自給率の向上と直販所への出荷増を目指した有望品目研究会を発足させ、平成23年度から3部門体制となっている。</p> <p>協業部門では2.1haの面積となり、作業受託部門の受託面積も14ha、また有望品目研究部では野菜2種類の試作・試食会を実施し、各部門の活動は定着しつつある。</p> <p>◆機械の効率利用面から、受託面積の拡大と、有望品目の定着が課題となっている。</p> <p>○いの町吾北地区の集落営農は、平成24年度まで1-6地区であったが、25年度に大野内営農組合が発足され7地区となった。また、集落組織・中山間直接支払組織等の会議を開催し、地区の連携に向けた協議会発足に向けた動きが出てきた。</p> <p>◆発足間もない集落営農組織においては、活動の定着と今後への営農計画・ビジョン作成が課題となっている。また、地区連携に向けて、それぞれの地区の課題も異なり、全体の動きとなっていない。</p>	<p>上東地区営農組合 役員会(6回)、総会 有望品目研究部門 検討会(3回) 現地検討会(1回)</p> <p>いの町吾北地区集落営農 連絡会(9回) 中山間直接支払対策研修会(1回)</p> <p>大野内集落営農組合 役員会(3回)、総会</p>
<p>11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発</p> <p>(いの町)</p> <p>いの町本川地区の特産品として「本川きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。</p> <p>【本川きじ生産組合、庭先農家、いの町】</p>	<p>○目標達成には到っていないが、飼育及び処理加工マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。平成23年秋より新しく商品に「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。平成24年は生産組合がゆうパック秋冬ギフトへ申請し採択、手箱建設は、東武百貨店ネット事業部で販売開始し、今後の足がかりとなった。平成25年度には新商品として生ハムの試作品ができた。</p> <p>◆需要に対応した安定的な生産・経営体制の確立</p> <p>◆需要増加に対応できる新たな設備投資の検討</p> <p>◆販路拡大(県内の知名度アップ、首都圏・関西圏)</p>	<p>・産業振興アドバイザー指導・助言実施(6/20、7/17、8/7、9/9、10/16)</p> <p>・平成26年度連携組織活性化支援事業(経営革新支援)に応募(本川きじ生産組合)(9/30)</p> <p>・平成26年度連携組織活性化支援事業(経営革新支援)交付申請(本川きじ生産組合)(10/27)</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	指標・目標
		<p>【指標】 JAコスモス出荷量(H23園芸年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊野支所 生薑:464t 白芽芋:27t 胡瓜:259t ・吾北支所 柚子:232t ワサビ:21t <p>【目標(H27)】 (H27園芸年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊野支所 生薑:510t 白芽芋:29t 胡瓜:265t ・吾北支所 柚子:250t ワサビ:30t <p>【H26到達点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊野支所 生薑:499t 白芽芋:29t 胡瓜:264t ・吾北支所 柚子:246t ワサビ:28t
<p>上東地区営農組合 今年度計画の作成(協業面積、受託面積)。 受託面積等について整理された(受託等18.5ha:未確定)。 新たな乾燥機(20石用)の導入による受託作業拡大。</p> <p>いの町吾北地区集落営農 ネットワーク化を進めることが共有化される。 研修会において、連携について啓発をし、既存組織からも、受託の連携拡大について要請がされた。</p> <p>大野内集落営農組合 中山間直接支払が実施されることになった。</p>		<p>【指標】周年経営する協業面積(H22:1.7ha) 【目標(H27)】1.9ha 【H26到達点】1.9ha</p> <p>【指標】水稲作業の受託面積(H22:8ha) 【目標(H27)】24ha 【H26到達点】18ha</p> <p>【指標】集落営農組織数(H22:6組織) 【目標(H27)】7組織 【H26到達点】7組織</p> <p>【指標】集落営農組織のネットワーク化 【目標(H27)】協議会発足 【H26到達点】協議会準備会</p>
<p>・料亭濱長へ初出荷(6/1)((有)手箱建設) ・本川手箱きじ生産企業組合法人登記(12/5)</p>		<p>【指標】本川きじの生産羽数 (H20:1,000羽) (H23:2,400羽)</p> <p>【目標(H27)】 6,800羽</p> <p>【H26到達点】 6,800羽</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (同じ手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>12 農業振興ネットワークの構築による地域の活性化</p> <p>【日高村】</p> <p>生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークを構築し、情報の共有化を図り、日高の農産物及びび村の知名度アップを図ることにより、地域生産者の所得向上や地域の活性化を目指す。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークの構築</p> <p>◆日高村及び日高村農産物の知名度向上</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(3回)</p> <p>・日高村アグリネットワーク会議の開催(1回)</p>
<p>13 仁淀川流域における木材産業の振興</p> <p>【仁淀川地域全域】</p> <p>仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、生産・加工・流通の安定化に向けた取組を行い、木材産業の振興を図る。</p> <p>【森林組合・林業事業者・素材生産業者・製材業者等】</p>	<p>○森の工場、森林経営計画の推進により、木材増産に向けた施業地の集約化が進んでいる。</p> <p>○森林組合においては、支所(高知中央森組)や製材工場(仁淀川森組)の統括による業務体制やコスト・生産性の改善が図られた。</p> <p>◆担い手の育成、確保</p> <p>◆施業の集約化と低コストへの取り組み</p> <p>◆増産体制の整備強化</p> <p>◆加工・流通体制の整備、確立</p>	<p>・新たに設立した木材増産推進ワーキンググループによる管内事業者への聞き取り調査実施(1-四半期 24事業者、2-四 19事業者、3-四 17事業者)</p> <p>・増産及び安定経営に向けた森林組合との定期協議(2回)</p> <p>・木材増産技術向上の先進事業者への視察研修(2回)</p> <p>・管内市町村との情報交換会(1回)</p> <p>・流域産材の販売・加工力強化に係る事業者への個別支援(11回)</p>
<p>14 特用林産物の販売拡大</p> <p>【仁淀川地域全域】</p> <p>特用林産物(シキミ・サカキ・竹炭等)の生産量の増加、品質向上のための取組などにより販売を拡大し、生産者の所得の向上を図ると共に新たな特用林産物への取組を行う。</p> <p>【JAコスモス・仁淀川森林組合・特用林産物生産者】</p>	<p>○シキミ・サカキの栽培指針の作成、生産者実態調査、現地研修会、目慣らし会、病害虫防除研修会等の取り組みにより、徐々に生産量の増や所得向上が図られた。</p> <p>○新たにマッシュルームの販売促進が図られるようになった。</p> <p>◆生産量の増加</p> <p>◆品質と販売価格の向上</p>	<p>・生産者と協議(3-四半期まで:竹炭2回、マッシュルーム6回、シキミ2回、シイタケ等6回、原木マイタケ1回)</p> <p>・営業(3-四半期まで:マッシュルーム2回)</p> <p>・商品展示会出展(3-四半期:1回)</p> <p>・試験研究機関との協議及び共同研究(3-四半期まで:2回)</p> <p>・先進地視察(徳島県阿波市3-四半期:1回)</p>
<p>15 うるめのブランド化</p> <p>【土佐市】</p> <p>「宇佐の一本釣りうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供する体制づくり、また、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【企業組合宇佐もん工房】</p>	<p>○年間を通じての生産・販売体制の構築、うるめを使ったレシピの開発によりブランド化が一定できた。</p> <p>○加工場の新設等により、顧客ニーズに柔軟に対応し、取引件数や売り上げが伸びてきている。</p> <p>◆原料の安定確保や、業務向け需要の開拓による宇佐もん工房経営の安定化</p>	<p>・一本釣りうるめ祭りの開催(市内14店舗参加)</p> <p>・各種イベントでのPR4回</p> <p>・商談会への参加1回</p> <p>・銀行ビジネスマッチング</p> <p>・食の旅行商品化に向けた協議8回</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	指標・目標
		【指標】農産物販売額 (H22:3.2億円) 【目標(H27)】 3.4億円 【H26到達点】 3.3億円
<ul style="list-style-type: none"> ・事業体ごとの現状と課題の抽出 ・幹部職員の意識改革と現場作業員の知識拡大 ・情報交換会の定期開催の決定 ・住宅1棟分の構造材を韓国へ初輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの事業体に応じた施策や指導方法が具体的に示せるようになった。 ・今まで無かった市町村間の情報交流により、認識共有や職員の交流が図れる体制となった。 ・韓国における流域産材のPR効果。 	【指標】 素材生産量 (H19:5.9万m3) (H22:3.7万m3) 【目標(H27)】 6.3万m3 【H26到達点】 6.0万m3
<ul style="list-style-type: none"> ・マッシュルーム栽培における経営及び栽培手法の改善 ・シイタケほだ場の害菌調査及び対処方法の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッシュルーム栽培における経費節減、病虫害対策の実施による経営改善及び品質向上が図られた。 ・シイタケほだ場の環境改善が図られた。 	【指標】 シキミ・サカキ出荷量 (H19 22t) (H22 30t) 竹炭出荷量 (H22 20t) 【目標(H27)】 シキミ・サカキ 32t 竹炭 25t 【H26到達点】 シキミ・サカキ 30t 竹炭 12t
<ul style="list-style-type: none"> ・商談成立1件 		【指標】 うめ商品の販売額 (H19:0千円) (H22:5,493千円) 【目標(H27)】 100,000千円 【H26到達点】 65,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (同じした手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>1.6 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承</p> <p>(土佐市、いの町)</p> <p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。また、特に担い手については、手すき和紙職人、道具職人、栽培農家のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、本格的な後継者の育成に繋げる取組を行う。</p> <p>機械すき和紙については、用途拡大に向け、異業種連携やマッチング等を実施し、更なる販路拡大を目指す。</p> <p>【手すき和紙協同組合、高知県製紙工業会、いの町商工会、f-nos.net 他】</p>	<p>【土佐和紙の消費拡大に向けた取組(H21~23)】</p> <p>○景気低迷やデフレ等の要因で、目標の達成には及ばなかったが、紙産業全体が大幅に落ち込み、土佐和紙の知名度の向上、下降の一端をたどっていた販売額減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のラベル、ふるさと博名刺等)</p> <p>○廃業になっていた書道用紙事業の復活や、新規書道半紙の誕生により、今後の受注対応や販売額増加に期待ができる。</p> <p>◆土佐和紙販売額の向上を図る上でキーマンとなる立場の組織や人材が不在。</p> <p>◆商品(土佐和紙)としても原紙のみの販売は限界があるため、商品化、包装等で付加価値を上げた販売戦略の構築が必要。</p> <p>◆手すき和紙職人も多くが高齢化しており、後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている(鳥の子名刺、清張紙、納経紙、がんび紙等)。所得の向上も含めて職業としてさらに魅力あるものにする必要がある。</p> <p>【「土佐和紙」の販売促進と保存・継承に向けた取組(H24~25)】</p> <p>○「土佐和紙」の保存・継承のために効果的な取組について職人へのヒアリングを行った結果、販売促進が重要であることが明らかになった。そのため、大消費地の新たな販路の開拓に向けて営業活動を開始した。</p> <p>○プラチナプリントの印画紙「土佐白金紙」を開発し、国内外に販売を開始した。</p> <p>○商工会が25年度に国の全国展開支援事業の補助金を導入し、中心市街地活性化のための計画策定に取り組んでいる。その中の紙部会として、紙の関係者を集めて新しい紙の文化を発信する方向で検討を開始した。</p> <p>◆日本3大和紙である、土佐和紙の産地として地域が一体となって、新しい紙の文化を発信できる仕組みづくりが必要。</p> <p>◆原料生産の後継者の育成が必要。</p>	<p>・紙の博物館リニューアル準備会(30周年記念事業)①実施(5/19)</p> <p>・紙の博物館リニューアル準備会(30周年記念事業)②視察研修を実施 島根県立古代出雲歴史博物館、安部榮四朗記念館(7/3~4)</p> <p>・紙の博物館リニューアル準備会(30周年記念事業)③実施(9/30)</p> <p>・紙の博物館リニューアル準備会(30周年記念事業)④実施(12/25)</p> <p>・紙のまち博覧会の開催(10/11~12/14)</p> <p>・トリエンナーレ展(10/11~11/30)</p> <p>・紙のまつり(12/12~12/14)</p> <p>・トリエンナーレ展に合わせた体験教室:10日間開催</p> <p>・デジタル掛け軸in紙壁に合わせた夜間開館(11/22、23)</p> <p>・「紙のまつり」夜間開館(12/13)</p> <p>・土佐和紙職人市:18日間開催</p> <p>・土佐和紙産地商談会(11/21、22)</p>
<p>1.7 集客施設を核にした高岡地区の活性化</p> <p>(土佐市)</p> <p>サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。</p> <p>【土佐市商店街活性化推進協議会等】</p>	<p>○集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し、計画策定に取り組んだ。</p> <p>○H25.4月に、土佐市高岡商店街集客施設「ドラゴン広場」をオープン</p> <p>◆安定的な施設運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品ぞろえの充実、情報発信 ・先進事例等から学ぶ施設運営のノウハウ蓄積 <p>◆高岡地区の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高岡商店街や周辺地域を巻き込んだ活性化方策の検討 	<p>・テナント会の開催9回</p> <p>・産振アドバイザー指導・助言実施(チームドラゴン会の開催)5回</p> <p>・イベントの実施(GW、パブリックビューイング、コンサート等)</p>
<p>1.8 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化</p> <p>(いの町)</p> <p>空き店舗・旧町屋・倉庫等について、地域産品の販売やコミュニティーの場、新規起業希望者へのチャレンジショップ等への有効活用を目指し、いの町商店街の再生へ向けた取組を行う。</p> <p>「紙の町をお金にする」「まちなかを元気にする」を目標として、新商品の開発及び各店舗の元気づくりに取り組む。</p> <p>【いの町、いの町商工会】</p>	<p>【イベント「よどがわ七色ロード」の実施(H24~25)】</p> <p>○H24に計5回イベントを実施し、商店主への意識づけと、地域内外に対する商店街のPRを行ったことにより、若い商店主を中心として、商店街を盛り上げていこうという意識が育ち、実行組織ができた。</p> <p>○イベントだけでは顧客、売上げの増加には結び付きにくい。イベントも含め、商店街を面として磨きあげ、発信するための計画づくりを多くの関係者を巻き込んで策定する必要があると考え、25年度に国の全国展開支援事業の補助金を導入し、計画を策定した。</p> <p>◆商工会の会員をはじめ多くの事業者、住民が主体的に関わり、計画を実行していくことが必要。</p>	<p>・中心市街地活性化のための計画実施</p> <p>・リーダー会及び事務局会(6回)</p> <p>・仁淀川部会:(7回)</p> <p>・職人部会:(8回)</p> <p>・食部会:(18回)</p> <p>・紙部会:(10回)</p> <p>・産振アドバイザー(2名)指導・助言実施(商店街活性化計画アクションプラン作成(2回:4/22、5/8)</p> <p>・産振アドバイザー(1名)指導・助言実施(歴史的町並み保全2回:5/7、6/4)</p> <p>・紙のまち博覧会の開催(10/11~12/14)</p> <p>・生姜焼き街道スタンプラリー:29日間開催</p> <p>・いのえきマルシェ(11/15、12/14)</p> <p>・いのまちマルシェ(11/22、23)</p> <p>・職人ストリート(11/23)</p> <p>・土佐ガリ総選挙(11/22、23)</p> <p>・新しい紙のお土産人気投票(11/9、16、22、23)</p>

アウトプット(結果) (インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと)	アウトカム(成果) (アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと)	指標・目標
<p>紙のまち博覧会 トリエンナーレ展 来場者:7,985人 紙ものまつり 来場者:1,732人 体験教室 参加者:191人 デジタル掛け軸in紙博に合わせた夜間開館 来場者:207人 「紙ものまつり」の夜間開館 来場者:51人 土佐和紙職人市 出展者:のべ33社 土佐和紙産地商談会 参加:6社(県外)×8社(土佐市、いの町)</p>	<p>土佐和紙職人市 売上:約278千円 土佐和紙事業者の商品づくりや営業等への意欲向上につながった。 紙の博物館を核とした中心市街地活性化プロジェクトのメンバーの連携意識が高まった</p>	<p>【指標】土佐和紙の販売額 (H19:1.6億円) (H22:6.6億円) ・機械漉き5.4億円 ・手漉き 1.2億円</p> <p>【目標(H27)】 6.6億円(現状の確保)</p> <p>【H26到達点】 6.6億円(現状の確保)</p>
<p>来場者数:H26年度(4~12月)79,234人(前年比93.0%)</p>	<p>直販市の売上:H26年度(4~12月)34,090千円(前年比98.7%)</p>	<p>【指標】 施設直販市での販売額</p> <p>【目標(H27)】 79,000千円</p> <p>【H26到達点】 62,000千円</p>
<p>紙のまち博覧会 生姜焼き街道スタンプラリー 参加店:17店舗 いのえきマルシェ 出展者:のべ10社 いのまちマルシェ 出展者:のべ7社 職人ストリート 出展者:6社 土佐ガリ総選挙 アンケート回収:375人 新しい紙のお土産人気投票 アンケート回収:237人</p>	<p>生姜焼き街道スタンプラリー 売上:約1,500千円 いのえきマルシェ 売上:約200千円 いのまちマルシェ 売上:約200千円 職人ストリート 売上:約100千円 紙の博物館を核とした中心市街地活性化プロジェクトのメンバーの連携意識が高まった</p>	<p>【指標】いの町商店街の空き店舗率の改善 (H23 25.3%) ※ 25/99店舗</p> <p>【目標(H27)】 20%未満</p> <p>【H26到達点】 21%未満</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (同じした手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>19 地域産品を活用した冷凍等の製造販売</p> <p>【(有)高知アイス】</p> <p>地域特産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>○生産体制および品質管理の強化(H22~23)</p> <p>○商品開発および販路拡大(H22~23)</p> <p>開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、同時期に生産体制を強化するための施設設備を整備しており、増産が円滑にできた。また、平成22年度には香港でアイスクリームの販売許可を取得することができ、平成23年度には海外での更なる販路拡大を目指し、海外向けHPの作成や商談会参加に取り組みなどして一定の販路拡大が図られた。</p> <p>○海外向けPRツール作成、水道施設の改良、直営売店の拡充(H24)</p> <p>平成24年度も海外での販路拡大のために成分検査・商標登録、ラベルプリンター導入、PR用ソフト制作、また海外向けの需要拡大を見込み給水施設を改良し海外向け販路拡大を強化できた。また、直営売店の飲食・売り場スペースを拡張し、工場視察の観光客等来店するお客様満足度の向上を図り、口コミ等によるPR効果によって更なる県外客による顧客拡大で、1年目の平成25年度売店売上額が平成27年度目標に到達した。</p> <p>○25年9月にハラル認証を取得したので、更なる海外の販路拡大が見込まれる。</p> <p>◆周年販売を目指し、海外市場の販路拡大 ◆顧客ニーズへの対応 ◆在庫・出荷体制の強化</p>	<p>・シンガポール、ゴールドストレーズスーパーマーケットにて試食販売プロモーション(3/30~4/13)</p> <p>・シンガポール試食販売マーケティング(5/15~25.5/26~6/2)</p> <p>・タイフェックス商談会(5/21~25)</p> <p>・ハワイテリリーフードショー(6/3~8)</p> <p>・香港試食販売マーケティング(6/11~24)</p> <p>・シンガポール伊勢丹試食販売プロモーション(8/12-20)</p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金の交付決定(10/8 総事業費39,372千円、補助金18,208千円)</p> <p>・香港・カイトアジア社の営業マンと同行営業(9/28-10/4)</p> <p>・「ジャパンハラルエキスポ2014」に出展(11/26-27)</p> <p>・シンガポール伊勢丹試食販売プロモーション(12/18-25)</p> <p>・「ガルフードショー」(ドバイ)出展:JETRO主催(2/8-12)</p>
<p>20 (株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進</p> <p>【仁淀川町】</p> <p>仁淀川町において、地域の商社として(株)フードプランを位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p> <p>【(株)フードプラン、仁淀川町】</p>	<p>○主力商品づくり(H21~25)</p> <p>目標(販売額2.6億円)の達成を1年前倒しで実現。雇用増にも貢献。主力商品が「カット野菜」であるため、野菜の高騰により利益確保が困難な局面もあったが、順調に販売額を伸ばした。</p> <p>○施設整備の検討が進み、課題整理ができた。(H24)</p> <p>◆現施設での生産能力が限界に達しており、地域経済へ貢献(雇用増、農家所得増等)するには、施設規模の拡大が必要である。</p>	<p>・経営計画策定事業について役場関係課と協議</p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金の交付決定(6/13 総事業費3,527千円、補助金1,633千円)</p> <p>・清流市担当者の増員(1名→2名)</p> <p>・経営分析事業の実施</p>
<p>21 売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>【佐川町】</p> <p>佐川町において、地元民間企業の商品の販売促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p> <p>【佐川町、JAコスモス、佐川町商工会、企画本舗さかやん屋、地元酒造会社、地元乳業者、地元加工業者、黒岩じりし、地元酪農家 など】</p>	<p>○平成21年度から酪農家を含めた農商工連携組織である地乳プロジェクト会を設置し、地元産の牛乳を使った商品づくりの取組を進め、平成22年度には、「さかわの地乳」のブランド化や地乳を使った加工品シリーズの商品化を図り、そのPR・販売促進の取り組みが進んだ。平成23年度には、地元の自主的な活動が活発化し、生乳出荷も増加傾向にあり、酪農家の所得も上がってきている。また、地乳加工品も増え、加工業者の所得向上や地域への経済波及効果が見込まれる。</p> <p>◆「さかわの地乳」シリーズ商品の管理、「地乳」商標管理を含めた組織の確立と体制の強化</p> <p>◆酪農家への直接収入化となる取組の実施</p> <p>◆「さかわの地乳」の牛乳、加工品等の販売ルートの確立</p>	<p>・地域資源や特性を生かした土産物を主とする商品開発の補助金「佐川ものづくり支援事業補助金」を佐川町が創設(250千円×8件分)</p>
<p>22 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化</p> <p>【日高村】</p> <p>日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進めるとともに、地域資源を活用した企業の取組等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○木質ペレット関連商品生産会社の誘致</p> <p>◆既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興</p> <p>◆魅力ある企業の誘致や村内企業の活性化</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(3回)</p>

アウトプット(結果) インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと	アウトカム(成果) アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと	指標・目標
<p>・シンガポール試食販売マーケティング 5月・8月でゆず大人気、完売続出、ゆずの知名度地域に浸透</p> <p>・タイフェックス商談数:32社 タイ側問屋と日本側問屋決定</p> <p>・ハワイチェリー貿易商談会:昨年以上の盛況でゆずアイテム発注倍増</p>	<p>数年前より取り組んできた海外市場開拓はシンガポール伊勢丹の試食販売プロモーションを通じて回を重ねるごとにゆずの知名度が上がり、同時に売上も伸びてきた。またハワイにおいても、問屋との同行営業でゆず商品の使い方・飲み方等を教えることによって、消費も増えてきた。この様に地道に気長く取り組むことによって、確実に販路は広がってきている。</p> <p>(例)シンガポールのプロモーションでは、売上が10日間で20万円程度だったが、6年間年4回現地プロモーションを続けてきた結果、1回のプロモーションでの売上が200万円になった。</p>	<p>【指標】冷蔵等の販売額(H22:3.75億円)</p> <p>【目標(H27)] 4.37億円</p> <p>【H26到達点] 4.31億円</p>
		<p>【指標】㈱フードブランドの販売額 (H19:2.2億円) (H22:3.2億円)</p> <p>【目標(H27)]4.0億円</p> <p>【H26到達点]5.2億円</p>
<p>募集開始3日間で9件の応募があり、受付順に審査の結果8件採択。また、8件中4件が地乳関連商品である。</p>		<p>【指標】生乳出荷量の拡大 (H21:240t)(H22:260t)</p> <p>【目標(H27)]480t</p> <p>【H26到達点]380t</p>
		<p>【指標] 支援企業数(H21:1社)(H22:1社)</p> <p>【目標(H27)] 2社</p> <p>【H26到達点] 1社</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果：○ 課題：◆)	インプット(投入) (填じた手立てが数値的に見える形で示すこと)
<p>23 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>【日高村】</p> <p>高知県産のさつまいもを活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p> <p>【法谷食品㈱】</p>	<p>○県外への新店舗の設置</p> <p>◆自社ブランド製品の開発と販路拡大</p> <p>◆原材料のさつまいもの栽培確保</p>	
<p>24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)</p> <p>【日高村】</p> <p>木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用を創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【㈱エスエス】</p>	<p>○企業進出による雇用の増</p> <p>◆地域素材を活用した地域振興</p> <p>◆安定した生産ライン体制の確立</p>	<p>・日産400ケースを目指した生産体制の調整</p>
<p>25 直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化</p> <p>【日高村】</p> <p>直販市「さんさん市」を拠点として整備し、周辺の観光資源と連携した活用を図ることで、日下川調整池周辺での観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度産振総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)による事業を実施し、地域の観光情報発信拠点機能を有した施設整備計画を取りまとめた。</p> <p>○平成25年度産振総合支援事業費補助金による事業を実施し、地域の観光情報発信拠点機能を有した施設整備に着手した。</p> <p>○平成25年度に産業振興アドバイザー制度により日高村総合発信拠点施設整備検討委員会を実施し、運営体制等の検討を行った。</p> <p>◆施設整備後の集客に向けた体制作り及び運営体制の検討が必要。</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(3回)</p> <p>・日高村総合発信拠点施設整備検討委員会の開催(8回)</p> <p>・村の駅ひだかでの特産品づくり及び加工施設改修検討会開催(6回)</p>
<p>26 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>【仁淀川地域全域】</p> <p>仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交流人口の拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマークを用いて販売促進を図るなど、観光と他産業を組み合わせた観光産業化を推進する。</p> <p>【仁淀川地域観光協議会、いの町観光協会、越知町観光協会、さかわ観光協会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村】</p>	<p>○仁淀川地域観光協議会の旅行会社への売り込みによるツアー造成は、昨年度に比べて大きく実績数を伸ばしている。</p> <p>○屋形船の運航(日高村)や、河原でのパーベキューサービス(いの町)など新たな体験メニューも開始された。</p> <p>○主要観光施設への入込客数が前年比で増加しているほか、カヌーやラフティングの参加者数、ツアー造成の実績数なども順調に増加している。</p> <p>※企画したツアーが149本進行、送客人数3,660名(H25年度実績)</p> <p>◆ツアー造成で取り上げてもらえる地域内の観光資源の掘り起こしを図るとともに、県の観光振興施策とも連携して県内外の一般客へのPRを行い、継続的な仁淀川地域への誘客につなげる。</p>	<p>・旅行商品及び観光資源等のプロモーション活動の実施</p> <p>エージェント訪問</p>
<p>27 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</p> <p>【仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、津野町、橋原町】</p> <p>横倉山から佐川川にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせ、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○ジオサイトの整備、実施主体の組織化など、整備事項が多岐にわたり、費用負担も相当規模になると見込まれることから、取組を円滑に推進するために、これらを盛り込んだ事業計画の検討を実施した。</p> <p>◆各6町村での説明会の実施や様々なイベントでの啓発活動など、最も重要であり、最も時間を要する地域住民の認知度の向上</p> <p>◆どのように地質資源の保全を行うか、地質等を如何に教育に役立てるか、地質遺産を楽しむジオツーリズムによって如何に地域経済活性化を図るかなど、ジオパークの3つの柱の整備</p> <p>◆ジオパーク推進拠点や多言語案内看板、説明板等の設置等のハード整備</p> <p>◆しっかりとした運営と運営計画の策定が実施できる運営母体の整備(組織は公的機関、地域社会、私的団体、および研究教育機関などから構成)。</p>	

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる「プラス」の変化を示すこと〉	指標・目標
		【指標】食品加工新規部門の販売額 (H21:2.0億円)(H23:3.2億円) 【目標(H27)】 4.5億円 【H26到達点】 5.7億円
		【指標】ペット用木質系排泄物処理剤の 販売額(H23:450万円) 【目標(H27)】 9,000万円 【H26到達点】 4,000万円
・村の駅ひだかオープン(H26.11) ・来場者数(レジ通過人数):H26.11~12月 30,309人	・直販市の売上:H26.11~12月 29,293千円	【指標】施設での販売額等 (H23:59,126千円) 【目標(H27)】 103,200千円 【H26到達点】 65,170千円
・企画したツアーが135本催行された。	・企画したツアーの送客人数 3,408人(12月末現在)	【指標】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客 数(H23:500人) 公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19:52,156人)(H22:52,902人) 主要観光施設の入込数 (H19:136,380人)(H22:135,029人) 【目標(H27)】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客 数730人(年10%アップ) 公共関連宿泊施設での宿泊者数 56,000人 主要観光施設の入込数 140,000人 【H26到達点】 ツアー客数 3,500人 宿泊者数 54,000人 入込数 138,000人
		【指標】ジオサイトへの入込客数 【目標(H27)】5000人 【H26到達点】 -

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果)○ 課題◆	インパクト(投入) (同じ手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>28 交流施設の整備による新居地区の活性化</p> <p>(土佐市)</p> <p>土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「観光交流センター」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。</p> <p>【(仮称)「特定非営利活動法人 新居を元気にする会」を予定】</p>	<p>○防災機能を備えた複合施設についての検討を重ね、H26年4月に交流施設建設にあたり国補助金交付申請を行った。</p> <p>◆運営方法、体制等の検討</p>	<p>複合施設建設に向けた関係者との協議5回</p>
<p>29 体験型観光・食観光の推進</p> <p>(土佐市)</p> <p>土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p> <p>【土佐市、土佐市商工会など】</p>	<p>○宇佐土曜市での体験メニューや買い物ツアーなど、旅行商品に組み込まれ、高評価を得ている。</p> <p>○宇佐・高岡の2地域から「まちあるきコース」が誕生し、ガイドの研修を実施。</p> <p>○ホエールウォッチング利用者の滞在時間を延長する取り組みが開始され、域内への波及効果が得られている。</p> <p>◆まちあるきガイドの不足</p> <p>◆宇佐のまちあるきコースの見直し、拡充</p>	<p>・体験型観光モニターツアーの実施2回</p> <p>・とさあるく。による高岡まちあるきの実施</p> <p>・ホエールウォッチング体験の実施</p> <p>・宇佐地区における観光商品化協議13回</p>
<p>30 体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり</p> <p>(いの町)</p> <p>いの町において、物理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。また、宿泊施設の少ない流域において、観光客が地域にお金を落とす仕組みとしての地域素材を活かした名物やお土産品の開発を行う。「グリーンパークほの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【いの町、いの町観光協会、いの町商工会、ロハスなむささびの里づくり協議会、土佐和紙工芸村ほか】</p>	<p>【体験型観光の推進(H21~25)】</p> <p>○平成22年度の仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)や所得の向上、地域の活性化につながっている。</p> <p>○平成23年度にNHK高知放送局80周年記念として、仁淀川特産が全国放送され、注目度が上がった事をきっかけとして、平成24~25年度に受け入れ体制の充実及び、新しい体験メニューづくりを行い、いの町に訪れる観光客の増加、地域経済の活性化に結び付けた。</p> <p>◆ハード・ソフト両面で、流域で受け入れる体制が構築されておらず、流域上げて取り組む組織体制の整備が必要。</p> <p>◆従来から流域で弱い食の観光も含め、さらなる魅力ある体験型観光メニューの構築や地域の資源を活かした銘産品の開発等が必要。</p> <p>◆イベント、体験型観光及び地域資源を活かした特産品を一体的に整備しアピールすることにより、観光客が地域にお金を落とす仕組みを構築することが必要。</p>	<p>・いの町紙のこいのほり開催:5/3~5</p> <p>・グリーンパークほのの梅もぎ体験開催:6/8</p> <p>・仁淀川国際水切り大会開催:8/24</p> <p>・仁淀川神楽と鮎と酒に酔う開催:9/27</p> <p>・カヌー・ラフティングのクオリティを上げ、価格設定も上げた</p> <p>・紙のまち博覧会の開催(10/11~12/14)</p> <p>まちあるき:13日間開催</p> <p>ものづくり体験:11/3、16 ミニぞうり、11/14 布ぞうり</p> <p>デジタル掛け軸in紙博:11/22、23開催</p> <p>ミラーボール&土佐和紙アート:12/13、14開催</p> <p>紙のまちのイベント「イノビ・オーダー」:11/22~30開催</p>
<p>31 山岳資源を活用した交流人口の拡大</p> <p>(いの町)</p> <p>「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【いの町、いの町観光協会】</p>	<p>○体験メニュー等の開発</p> <p>これまで高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。</p> <p>◆体験メニュー等の商品化</p> <p>◆商品化に向けての資源の掘り起こし</p> <p>◆売り込み先の確保</p> <p>◆瀬戸内圏から見た北の玄関口の窓口案内の強化</p>	<p>・山岳マップ(いのナビnewversion)配布(県内、愛媛県・香川県)</p> <p>・産振アドバイザー指導・助言実施(第1回 5/20,第2回 6/5,第3回 6/24、第4回7/22、第5回8/21)</p> <p>・春のUFOラインウォーキングツアー【城西館】の実施(5/14、5/17)</p> <p>・山岳観光の大川村との連携打合せ(6/19)</p> <p>・こうち山の日事業を活用したミニイベント開催</p>
<p>32 観光情報の一元化とおもてなし観光の推進</p> <p>(仁淀川町)</p> <p>仁淀川町において、情報発信の強化や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p> <p>【仁淀川町内の観光関連団体、仁淀川町】</p>	<p>○各団体のHPや観光情報サイト(にょどがわ、TV)が完成し、情報発信力が強化された。</p> <p>○宝来荘及びゆの森施設の改装・増築によるリニューアル</p> <p>○仁淀川町の観光を考える会による民間団体同士の交流あり</p> <p>○仁淀川町の観光を考える会によるガイドの発掘・養成(H25年度末累計8名誕生)</p> <p>◆ガイド人材の発掘・養成、仁淀川町ならではのツアーづくりと実践</p> <p>◆既存観光施設の運営、観光案内板等の不足、観光団体高齢化</p> <p>◆体験メニューの利用客が少ない</p> <p>◆情報共有が不十分で、役場・各団体間の意識統一や連携がうまく図られていない</p>	<p>・観光施策及び情報共有のための会合(役場・商工会・地域支援企画員)</p> <p>・観光情報交換、ツアー検討等のための会合(町内観光関連団体・商工会・地域支援企画員等)</p> <p>・町の観光PR(役場)</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	指標・目標
		【指標】 - 【目標(H27)】 - 【H26到達点】 -
<ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光メニューの確立2件 ・ホエールウォッチング体験者数2,328人 ・高岡まちあるき体験者数18人(12月末時点) 		【指標】 - 【目標(H27)】 - 【H26到達点】 -
<ul style="list-style-type: none"> ・いの町紙のこいのぼり: 5/3 4,000名、5/4 6,000名、5/5 5,000名 計15,000名参加 ・グリーンパークほどの梅もぎ体験: 約70名参加 ・仁淀川国際水切り大会: 184名エントリー ・仁淀川神楽と鮎と酒に酔う: 約5,000名参加 ・カヌー・ラフティングの魅力が向上 ・紙のまち博覧会の開催(10/11～12/14) <ul style="list-style-type: none"> まちあるき: 27名参加 ものづくり体験: 7名利用 デジタル掛け軸in紙博: 来場者 約1,000人 ミラーボール&土佐和紙アート: 来場者 約800人 イノビ・オーダー: 来場者 約700人 	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー・ラフティングの売上が向上 昨年: 2,649名 12,218,350円 (4月～12月) ⇒ 今年: 2,752名 17,723,274円(4月～12月) ・にこにこBBQの販売強化 4～11月の販売実績: 2,021名 3,851,300円 ・まちあるき: 売上 8,100円 ・ものづくり体験: ミニぞうり 売上 3,000円 布ぞうり 売上 3,500円 ・紙の博物館を核とした中心市街地活性化プロジェクトのメンバーの連携意識が高まった 	【指標】いの町内の公共施設の利用者数 (H22: 約450,000人) 【目標(H27)】 500,000人(10%アップ) 【H26到達点】 472,500人(5%アップ)
<ul style="list-style-type: none"> ・春のUFOラインウォーキングツアー【城西館】(5/14)参加者35人バス2台 (5/17)参加者33人バス2台 ・ミニイベント①木の根ふれあいの森参加者15人(8/23)②木の根ふれあいの森参加者17人(9/20) ・瓶ヶ森ハイキングツアー【西讃観光(香川県)】 (10/1)参加者30人、(10/4)参加者29人 ・東黒森ハイキング【城西館】(10/15)参加者17人 ・UFOウォーキング【城西館】(10/18)参加者44人 ・平家平ハイキングツアー【西讃観光(香川県)】 (11/1)参加者14人、(11/5)参加者27人 		【指標】本川地区の公共施設利用者数 (H22: 67,600人) 【目標(H27)】 71,000人(5%アップ) 【H26到達点】 69,800人(3.3%アップ)
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体によるツアーの検討・実施等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー実施数1ツアー ・ツアー検証数1ツアー 	【指標】ガイド養成人数、ツアー数 【目標(H27)】 ガイド養成人数 20人 ツアー数 50ツアー 【H26到達点】 ガイド養成人数 10人 ツアー数 20ツアー

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果: ○ 課題: ◆)	インプット(投入) (傾いた手立で数量的に見える形で示すこと)
<p>33 歴史的風致維持向上計画の推進 (佐川町)</p> <p>【文教のまち】佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、量より質の観光地づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、観光資源としての充実を図る。</p> <p>【佐川町、さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり関連団体】</p>	<p>○歴史的風致形成の取組みでは国庫補助事業の活用により、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築や、景観を損なう建物を取り壊して小公園の整備、牧野富太郎博士の生家跡への「牧野ふるさと館」の建設、旧浜口家住宅の復元整備、藩政時代に家臣の子息の学びの場であった「名教館」の移築整備等により、歴史的建造物が建ち並ぶ街並みを整備した。</p> <p>○NPO法人佐川くろがねの会を中心に、観光資源を活かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。</p> <p>○平成25年度、観光拠点となる「さかわ観光協会」が発足</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街並み環境整備事業計画への取組</p> <p>◆さかわ観光協会を中心とした佐川町の物産販売、情報発信や、地域で作り込んだ観光の提案の積極的な実施</p>	<p>・竹村分家旧竹村呉服店現所有者より、佐川町の歴史的風致維持向上計画に賛同して頂き、H25年10月に建物及び土地についての寄付申し入れがあった。それに対して町として、受け入れの準備を行っていた。</p> <p>・NPO法人佐川くろがねの会が観光ガイド養成研修を実施(5回)</p>
<p>34 越知町の総合的な観光推進と地場製品の販売促進 (越知町)</p> <p>情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p> <p>【おち駅運営協議会、越知町観光協会、JAコスモス、越知町など】</p>	<p>○H22.4:観光物産館おち駅オープン</p> <p>○H24.8:新POSシステム導入</p> <p>◆出荷者の確保</p> <p>◆他の直売所との差別化</p> <p>○H23.7:カヌー、ラフティング開始</p> <p>◆荒天時、シーズンオフへの対応</p> <p>◆カヌー、ラフティングのガイド確保</p>	<p>・おち駅物販経営協議会総会の開催(1回)</p> <p>・おち駅物販経営協議会の開催(9回)</p> <p>・カヌー、ラフティング救命救急講習(1回)</p> <p>・カヌー、ラフティングインストラクター養成講座(1回)</p> <p>・ソーシャルメディアを活用した情報発信力向上講座(2回)</p> <p>・横倉山案内人養成講座(7回)</p>
<p>35 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化 (日高村)</p> <p>仁淀川沿いエリアでの新たな観光振興につながる屋形船の運行開始に合わせて船の発着場周辺を整備することで、集客力のアップを図り、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度観光拠点等整備事業費補助金(観光資源魅力向上事業)による事業を実施し、屋形船を活用した拠点整備計画を取りまとめた。</p> <p>○仁淀川初となる屋形船運航が開始された。</p> <p>◆仁淀川沿いエリアにおいて、川を活用した体験メニューの充実が必要。</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(3回)</p>
<p>36 国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化 (日高村)</p> <p>小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした観光資源の整備を図ることで小村神社周辺エリアでの交流人口を拡大し、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>○平成24年度観光拠点等整備事業費補助金(観光資源魅力向上事業)による事業を実施し、国宝レプリカを活用した施設整備計画を取りまとめた。</p> <p>○国宝レプリカの完成</p> <p>◆小村神社周辺エリアでは、国宝に指定された大刀の常設展示など観光資源の磨き上げと域内の観光ガイドの組織化など体制整備が必要。</p>	<p>・庁内プロジェクト会議の開催(3回)</p>
<p>37 生姜等加工品製造施設整備事業 (いの町)</p> <p>仁淀川地域の基幹品目である、生姜の増産及び加工品の生産性の向上を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することにより、いの町内等の生姜生産者の所得の向上及び、地域の雇用拡大に繋げる。</p> <p>【西村青果株式会社】</p>		

アウトプット(結果) (インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと)	アウトカム(成果) (アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと)	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> 6月12日に佐川町において、町と所有者との無償譲渡契約締結を行った。 観光ガイド養成研修受講者延べ74人(4/24:14人、5/15:14人、6/5:17人、6/26:29人) 町並みガイド実践者の増加、ガイド台本のブラッシュアップ 	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き観光ガイド(NPO法人 佐川くろがねの会)利用者数が大幅に増加(H24年度:1,339人→H25年度:2,986人→H26年度4~12月:3,741人) 	<p>【指標】歴史的風致地区への入込客数</p> <p>【目標(H27)】 10,000人</p> <p>【H26到達点】 10,000人</p>
<ul style="list-style-type: none"> 施設での販売額:50,126,188円(H26.12月末現在) 施設への来客数:73,794名(H26.12月末現在) カヌー利用者数:439名(H26.12月末現在) ラフティング利用者数:711名(H26.12月末現在) カヌー、ラフティング救命救急講習:5名 カヌー、ラフティングインストラクター養成講座:7名 産振アドバイザーによる情報発信力向上講座:5名 横倉山案内人養成講座:20名 		<p>【指標】施設での販売額(H22:5,600万円) 体験メニューの造成 案内人の養成数 ラフティング・インストラクター数(H23:6人)</p> <p>【目標(H27)】 施設での販売額 6,000万円 体験メニューの造成 6メニュー 案内人の養成数 6人 ラフティング・インストラクター数 8人</p> <p>【H26到達点】 施設での販売額6,300万円</p>
<ul style="list-style-type: none"> 屋形船の利用者数(12月末現在):3,037人 		<p>【指標】体験型観光での入込客数(H22:7,834人)</p> <p>【目標(H27)】 23,500人</p> <p>【H26到達点】 16,200人</p>
		<p>【指標】体験型観光での入込客数(H22:7,834人)</p> <p>【目標(H27)】 23,500人</p> <p>【H26到達点】 16,200人</p>
		<p>【指標】生姜等加工品の販売額(H25:210百万円)</p> <p>【目標(H27)】 276百万円</p> <p>【H26到達点】 -</p>

